

平成 24 年 7 月 19 日 福島民友新聞社 minyu-net へ掲載されました

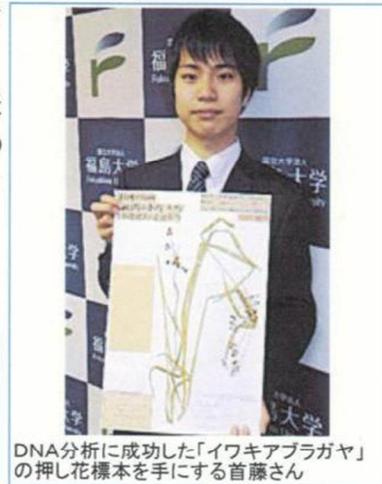
福島大、押し花のDNA分析 絶滅種の起源解明に期待

福島大共生システム理工学類は18日、県のレッドデータブックで絶滅種に指定されている1934(昭和9)年採取の「イワキアブラガヤ」の押し花標本のDNA分析に成功したと発表した。同大によると、これまで20～30年前の押し花標本のDNA分析は困難とされてきたが、78年前に採取した標本のDNA分析は画期的。

研究メンバーの一人、黒沢高秀准教授は「絶滅種の実態解明に今回の手法が役立つことが期待される」と未知の植物標本の起源解明への応用に期待を寄せる。黒沢准教授をはじめ、同大学院共生システム理工学研究科博士課程の首藤光太郎さん(前期1年)、同研究科の兼子伸吾特任助教の3人が共同研究した。

同大によると、古い標本はDNAが劣化しているため、分析に必要な過程の「PCR増幅」に成功しないことが多かった。しかし、今回はPCR増幅できる短いDNA配列を新たに設計。この結果、DNAの分析に成功した。黒沢准教授らは今回得たDNA配列データを活用し、北米からの帰化植物であるとの説があるイワキアブラガヤの由来を解明する考え。

(2012年7月19日 福島民友ニュース)



DNA分析に成功した「イワキアブラガヤ」の押し花標本を手にする首藤さん